

スペシャルインタビュー「学ぶということ」



株式会社ガイアックス 代表取締役社長

上田祐司

ビジネスと学びは表裏の関係 連鎖させると可能性が広がる

誰かの役に立つために
学びでスキルを補う

若く24歳で起業し、インターネット上のコミュニティ分野に特化したサービスで業績を伸ばす、株式会社ガイアックスの上田祐司社長。ブロードバンドの普及など追い風となり、会社設立以来、300以上のサイト構築や運営を手掛けている。「ビジネスは人の役に立つって、初めて成り立つものです。そのためスキル不足を補うのが勉強」だと言う上田さん。彼がそのような考えに至ったのは、高校から大学時代にかけて、世論調査の手伝いや英会話教材のセールス、焼き芋屋など、30種以上のアルバイトやボランティアに携わった経験からだ。

「地元のお祭りの時に、ハンバーガーの屋台を出したんです。土曜、日曜を借りたり、肉を仕入れたら、当時2200円だったハンバーガーを、1500円で提供したんですね。それが安くおもしろいという評判になったんです。こっちはお金儲けでやっているのに、すごく喜んでもらえて、最終日、営業を終えた時には、大勢のお客さんから拍手してもらいました。この時に、人の役に立つことは、なんて気持ちのいいものなんだろうと思いましたが、仕事というのは、誰かに喜んでもらえて、成り立つものなんだ。あの時にもっとおもしろいハンバーガーの焼き方を教えていたら、もっと喜んでもらったのにと思っただけです。」

「地元のお祭りの時に、ハンバーガーの屋台を出したんです。土曜、日曜を借りたり、肉を仕入れたら、当時2200円だったハンバーガーを、1500円で提供したんですね。それが安くおもしろいという評判になったんです。こっちはお金儲けでやっているのに、すごく喜んでもらえて、最終日、営業を終えた時には、大勢のお客さんから拍手してもらいました。この時に、人の役に立つことは、なんて気持ちのいいものなんだろうと思いましたが、仕事というのは、誰かに喜んでもらえて、成り立つものなんだ。あの時にもっとおもしろいハンバーガーの焼き方を教えていたら、もっと喜んでもらったのにと思っただけです。」

「地元のお祭りの時に、ハンバーガーの屋台を出したんです。土曜、日曜を借りたり、肉を仕入れたら、当時2200円だったハンバーガーを、1500円で提供したんですね。それが安くおもしろいという評判になったんです。こっちはお金儲けでやっているのに、すごく喜んでもらえて、最終日、営業を終えた時には、大勢のお客さんから拍手してもらいました。この時に、人の役に立つことは、なんて気持ちのいいものなんだろうと思いましたが、仕事というのは、誰かに喜んでもらえて、成り立つものなんだ。あの時にもっとおもしろいハンバーガーの焼き方を教えていたら、もっと喜んでもらったのにと思っただけです。」